

2025年を振りかえって

野口幹夫

年末恒例のアルバム作成をしていて、今年もいろんなことがあったことをおもいだしながら、それなりに充実した年だったと勝手に自賛している。

まず老化は避けがたい。耳と鼻の衰えが強い。補聴器をつけていても話が聞き取れない無念が多くなった。教室での先生の話、孫たちも来てくれた団欒の場での会話。聞こえているふりをしなければならず、不意にこちらに話が向けられた時に慌てる。この命綱の補聴器を今年は2度も紛失して慌てた。2度ともマスク必着の病院で、マスクを外すときにおとすのだ。その時になぜか気が付かず、夜入浴の時に気が付くほどぼけている。幸い2度ともその場所に翌日行って落とし物として保管してあってほっとした。高いのだ。

また嗅覚がなくなった。楽しんでいた沈香の線香が無用になったのが寂しい。嗅覚リハビリというのがあるのだが、さっぱり効果が出てこないままだ。

でも何とか今年は風邪もひかず健康で過ごせた。自転車の転倒を1回やった。でも怪我はなかった。6月には軽い腰痛と脚の痛みがでたが、数回のリハビリで消えてくれた。足のむくみがでて、腎臓機能の低下と診断されたが、利尿剤の処方ですぐむくみは早々と消えた。腎機能を示す血液の数値は良くなっていないままだが。それでも毎日の海岸でのラジオ体操は皆出席できたことが何よりの健康の

支えであった。

うれしかったことは5人の孫のひとりが、トップを切って結婚してくれたことだ。今の若い世代はそもそも結婚の希望はないのかと心配していたので、これが刺激になって跡が続いてくれることの希望がうまれた。

悲しかったことは、また今年もまた親しかった人を失った。大学時代の心を許した友人が亡くなり大学の同窓会もできなくなった。大阪で残っていた年下の甥と5歳年長の従姉が亡くなり電話をかける相手がなくなった。

寂しかったことは、自分の勤務会社のOB会が二つとも今年で終わりとなったこと。なぜやめるのかと思うが、そんな思いは届かない。

でもよかったのは、少しも上達しないがそれでも太極拳教室とスペイン語教室の末席についていることだ。

また気持ちの支えとなっているのは、教会のカトリック入門講座を継続し今年は3名の熱心な受講生を得たこと、と高津高同窓会と異業種雑学研究三水会の二つのズーム会を開いていることだ。

それぞれに提供するテーマを探索することがたのしい。今年は「ベルグソン哲学の現代への延長発展」<https://kozu5.my.coocan.jp/BergsonGendaiEncho.pdf> と

いう大きなテーマに取り組み自分でも納得する成果をあげた。「宇宙人宮沢賢治」

<https://kozu5.my.coocan.jp/NoguchiMiyazawakennji.pdf> もそのひとつだった。

KOZOOM への寄稿では清少納言の「星は昴」など書いていることが楽しい。

食道楽の楽しみといえば、新発見は小田原漁港の食堂で食べたアジフライのう

まさが絶品だった。チョコレートはもともと好きだが、ロッテのバックスとレミ

ーは洋酒をチョコの中に盛り込んだ逸品だ。猪口一杯だけの晩酌は欠かせない

が、日本酒の「白鶴大吟醸酒」が安くてうまいと気に入っている。

日本全体でみると能登地震に始まり、山火事まで各地で災害があったが、幸い自

分の住んでいる地は安泰だった。富士の噴火が危惧されてはいるが、今はおとな

しく美しい姿を見せてくれている。

いろんなことがあった今年もあとわずか、来年はどんな年が来ることやら。